

# 天地は滅びるが

---

シリーズ～続 福音の力～

2021/1/31

## ルカ福音書21章20～24節

---

「エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ち退きなさい。田舎にいる人々は都に入ってはならない。書かれていることがことごとく実現する報復の日だからである。それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ。この地には大きな苦しみがおり、この民には神の怒りが下るからである。人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

# エルサレムの滅亡

---

- この話のきっかけ
  - 「ある人たちが、神殿が見事な石と奉納物で飾られていることを話していると、イエスは言われた。『あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。』」(21:5-6)
- エルサレムが軍隊に囲まれる
  - 「その滅亡が近づいたことを悟りなさい」
- エルサレムから逃げよ
  - 「ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。都の中にいる人々は、そこから立ち退きなさい。田舎にいる人々は都に入ってはならない。」

# エルサレムが異邦人の手に

---

- 神の怒りが下る
  - 「この地には大きな苦しみがああり、この民には神の怒りが下るからである。」
- 再び始まる離散生活
  - 「人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。」
- 異邦人が占拠する
  - 「異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

# エルサレムに入る直前の予言

エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、**神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。**」(19:41-44)

エルサレムの人々への憐れみか？

# エルサレムの悲劇

---

- ユダヤ戦争の勃発
  - 紀元66年、カイサリアにおけるユダヤ人の殺害に端を発して、暴動が各地で起こる
- ネロ帝による鎮圧
  - シリア属州の軍隊との戦いにユダヤ人が勝利
  - ネロ帝が3個師団を送って鎮圧に向かわせる
- エルサレム陥落(紀元70年)
  - ウェスパシアヌス帝の息子ティトゥスによりエルサレムは包囲され、143日の戦いの後陥落
  - 交渉人でもあった歴史家ヨセフォスは、この戦いでユダヤ人110万人が死に、10万人が捕虜となり奴隷にされた、と書いている

# エルサレムの悲劇

- ユダヤ戦争の勃発
  - 紀元66年、カイサリアに突如として、暴動が各地で起る
- ネロ帝による鎮圧
  - シリア属州の軍隊との戦いに、ローマ軍が勝利
  - ネロ帝が3個師団を送って鎮圧に向かわせる
- エルサレム陥落(紀元70年)
  - ウェスパシアヌス帝の息子ティトゥスによりエルサレムは包囲され、143日の戦いの後陥落
  - 交渉人でもあった歴史家ヨセフォスは、この戦いでユダヤ人110万人が死に、10万人が捕虜となり奴隷にされた、と書いている

イエス様の予言を知っていた信徒たちは、直前にエルサレムを離れ、ヨルダン川を渡ってペラへ逃げた

# ティトゥスの凱旋門のレリーフ

---



82年、ローマ帝国第11代皇帝ドミティアヌスにより、先代皇帝でドミティアヌスの兄でもあるティトゥスのエルサレム攻囲戦等での戦功を称えるため建てられた。



# その後のエルサレム

---

- 第二次ユダヤ戦争(132～135年)
  - メシアと称するバル・コクバに率いられて反乱が起こる
  - 反乱は鎮圧され、エルサレムは徹底的に破壊される
- 立ち入り禁止となる
  - ハドリアヌス帝によって「**アエリア・カピトリナ**」と改名
- キリスト教の聖地となる
  - コンスタンティヌス帝がキリスト教を国教とする(313年)
  - イエスの墓とされていた場所に「**聖墳墓教会**」を建てる
- イスラム教徒による支配
  - イスラエル建国(1948年)後も神殿のあった場所にはイスラム教の「**岩のドーム**」が建っている！

「異邦人の時」はまだ終わっていない！



オリーブ山から見たエルサレム

## ルカ福音書21章25～28節

---

「それから、太陽と月と星に徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである。そのとき、**人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々を見る。**このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ。」

# イエス・キリストの再臨

---

- 天変地異が起こる
  - 「人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失う」
- 「人の子」(イエス・キリスト)が再臨する
  - 「人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。」
- 再臨の意義
  - 「**解放の時**」が来る<このままいつまでも続かない
  - 「人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい。」(21:36)

## ルカ福音書21章29～33節

---

それから、イエスはたとえを話された。「いちじくの木や、ほかのすべての木を見なさい。葉が出始めると、それを見て、既に夏の近づいたことがおのずと分かる。それと同じように、あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、神の国が近づいていると悟りなさい。はっきり言っておく。すべてのことが起こるまでは、この時代は決して滅びない。**天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。**」